



WLSE Autonomous から WCS コントローラへの展開の変換

この章では、Cisco Wireless LAN Solution Engine (WLSE) ネットワーク管理アプライアンスを Cisco Wireless Control System (WCS) ネットワーク管理ステーションに変換する方法について説明します。



注意

WLSE が WCS に変換されると、WLSE として使用できなくなります。また、WLSE に変換しなおすこともできません。この変換は、一方向のみの変換です。

- **WLSE Autonomous** : WLSE ネットワーク管理アプライアンスは、Aironet 製品の Autonomous アクセス ポイントと共に展開されます。一部のアクセス ポイントは、SWAN アーキテクチャ内のアクセス ポイントのセットに対してドメイン コントローラ (WDS) として機能し、アクセス ポイントは WLCCP プロトコルを使用して有線ネットワークを介して通信します。

WLSE ネットワーク管理ステーションは、WLSE ソフトウェアがインストールされたシスコのアプライアンスです。

- **WCS Controller** : WCS ネットワーク管理ステーションは、Red Hat Enterprise Linux を実行する、ユーザ選択のハードウェア上に展開されます。ネットワーク管理ステーションは、アクセス ポイントを制御するコントローラ スイッチを管理します。コントローラは、LWAPP プロトコルを使用するアクセス ポイントと有線ネットワーク上で通信します。
 - WCS は、コントローラ、アクセス ポイント、および Location Appliance などの Cisco Wireless LAN Solution の設定を保持します。
 - それにより、Cisco WCS システム管理者はすべての Cisco WCS オペレータにログイン、パスワード、権限を割り当て、定期的なシステム タスクの時間を設定できます。
 - Cisco WCS オペレータは、任意の接続済みワークステーションの Web ブラウザを使用して Cisco WCS の設定、監視、および管理機能にアクセスできます。また、Cisco WCS オペレータは Wireless LAN Solution コンポーネントと Cisco WCS データベースの設定を、権限レベルに応じて追加、変更、および削除できます。

この章の内容は、次のとおりです。

- サポートされるハードウェア (P. C-2)
- インストールおよび設定 (P. C-3)
- 変換済みアプライアンスの設定 (P. C-5)
- ライセンス供与 (P. C-8)

サポートされるハードウェア

サポートされる Cisco WLSE 管理ステーション

WLSE 管理ステーションから WCS 管理ステーションへの変換は、Cisco WLSE 1130-19 または 1133 ハードウェア プラットフォームでサポートされています。



(注)

WLSE 管理ステーションから WCS 管理ステーションへの変換は、Cisco WLSE 1030 Express プラットフォームでサポートされています。

LWAPP に変換可能な Autonomous アクセス ポイント

次の Autonomous AP モデルは、WCS コントローラ展開に変換できます。

- Cisco Aironet 1230AG シリーズ アクセス ポイント (AP 1232AG)
- Cisco Aironet 1200 シリーズ アクセス ポイント (AP 1200)
- Cisco Aironet 1130AG シリーズ アクセス ポイント (AP 1132AG)

インストールおよび設定

WLSE ネットワーク管理アプライアンスを WCS ネットワーク管理ステーションに変換するには、2 枚の CD が必要です。

- Wireless Control System バージョン 4.0 の変換 CD。この CD により、WCS ソフトウェアおよび Red Hat Enterprise Linux 3 が WLSE ネットワーク管理アプライアンスにインストールされます。
- WCS ネットワーク管理ステーションを Red Hat Enterprise Linux 4 にアップグレードする、アップグレード CD。WCS ソフトウェアと Red Hat Enterprise Linux 3 のインストールを完了するために必要です。インストール完了後に、Red Hat Enterprise Linux 4 へのアップグレードを実行して、WLSE ネットワークステーションを分割します。



(注) WLSE ネットワーク管理アプライアンスを WCS ネットワーク管理ステーションへ変換した後は、元に戻せません。WLSE ネットワーク管理アプライアンスへ変換しなおすことはできません。

Cisco WCS のインストール

Cisco WCS ソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。WLSE ネットワーク管理アプライアンスに対する物理的なアクセス権が必要です。セットアップスクリプトおよびインストールスクリプトにはコンソールとの対話が必要なため、WLSE アプライアンスに対するコンソールアクセスが必要です。インストール完了までの時間はおよそ 45 秒です。



(注) WCS ソフトウェアをインストールする前に、保存しておく必要のある WLSE アプライアンスのデータのバックアップを作成します。データのバックアップを作成するには、『User Guide for the CiscoWorks WLSE and WLSE Express』の「Backing Up and Restoring Data」を参照してください。

- ステップ 1** WCS ソフトウェアと Red Hat Linux Enterprise 3 ソフトウェアが収録された CD を、WLSE ネットワーク管理アプライアンスの CD ドライブに挿入します。
- ステップ 2** コマンドラインインターフェイス (CLI) のプロンプトを使用して、WLSE に **administrator** としてログインします。
- ステップ 3** **reload** コマンドを入力して、リブートします。WLSE はリブート、ロードした後、CD からインストールします。インストール後、CD は自動的にイジェクトされ、再びリブートします。
- ステップ 4** ユーザ名に **root**、パスワードに **setup** を使用してログインします。WCS ウィザードのセットアップスクリプトの指示に従います。ネットワークのセットアップに適用できる数値を、プロンプトに従って回答します。
- ステップ 5** リブートについてプロンプトが表示されたら、**Y** または **Yes** と入力します。リブート後、[Red Hat Enterprise Linux 4 へのアップグレード](#)に進みます。

Red Hat Enterprise Linux 4 へのアップグレード

WLSE ネットワーク管理ステーションを Red Hat Enterprise Linux 4 にアップグレードする手順は、次のとおりです。



(注) Red Hat Enterprise Linux をアップグレードする前に、WLSE を Cisco WCS ソフトウェアと Red Hat Linux Enterprise 3 ソフトウェアに変換しておく必要があります。

-
- ステップ 1** Red Hat Enterprise Linux アップグレードソフトウェアが収録された CD を、WLSE ネットワーク管理アプライアンスの CD ドライブに挿入します。
- ステップ 2** ユーザ名の **root** とウィザードで入力したパスワードを使用してログインします。
- ステップ 3** **reboot** コマンドを入力して、WLSE ネットワーク管理アプライアンスをリブートします。
-

変換済みアプライアンスの設定

CD で Red Hat Linux 3 をインストールし、4.0 へのアップグレードを実行済みの場合、アプライアンスを設定できます。Linux をインストールすると、マシンがリブートします。アプライアンスコンソールに接続する必要があり、そのために、ログインのプロンプトが表示されます。ログイン後、下記のコンソール接続に関する一連のプロンプトを進みます。

**注意**

WLSE が WCS に変換されると、WLSE として使用できなくなります。また、WLSE に変換しなおすこともできません。この変換は、一方向のみの変換です。

**(注)**

WCS サーバは、アプライアンスを設定するまで起動しません。

localhost.localdomain login:

ログイン名の *root* と入力します。

Password:

パスワードの *setup* を入力します。

Setup parameters via Setup Wizard (yes/no) [yes]:

セットアップ ウィザードを使用する場合は **yes** と入力し、手動でパラメータを設定する場合は **no** と入力します。経験豊富な Linux システムの管理者以外は、セットアップ スクリプトを使用してシステム設定を最適化しないでください。角カッコ内のオプションは、デフォルトです。デフォルトを選択するには、**Enter** を押します。

Current hostname=[localhost]

Configure hostname? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

ホスト名は一意の名前にして、ネットワーク上のデバイスを識別できるようにします。

Enter a host name [localhost]:

ホスト名は文字で開始して、文字または数字で終了します。文字、数字、およびダッシュのみを使用できます。

Current domain=[localdomain]

Configure domain name? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

ドメイン名は、このデバイスが属しているネットワーク ドメインを指定します。

Enter a domain name [localdomain]:

ドメイン名は文字で開始して、有効なドメイン名の拡張子 (.com など) で終了します。文字、数字、ダッシュ、およびドットのみを使用できます。

Configure root password? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

Yes を選択するには、**Enter** を押します。

Enter root password:

Confirm root password:

スーパーユーザのパスワードを入力し、再度入力して確定します。入力結果は、表示されません。

Remote root login is currently disabled.

Configure remote root access? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

このマシンのセキュア シェルのルート ログインを有効化するには、**Yes** を選択します。これにより、コンソールからと SSH 使用の両方で *root* ログインが許可されます。ルート ログインを有効化しない場合には、**Skip** を選択します。リモートルート ログインを無効化のままにすることを選択した場合、*root* ログインはコンソール以外からは実行できません。

Enable remote root login (yes/no) [no]

コンソール ログイン以外に SSH を使用したリモート ログインを許可するには、**yes** を選択します。コンソール以外からの *root* ログインを許可しない場合は、**no** を選択します。

Current IP address=[]
Current eth0 netmask=[]
Current gateway address=[]
Configure eth0 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

メインイーサネット インターフェイスのセットアップを開始するには、**Yes** を選択します。ネットワーク管理者は、次のプロンプトの情報を入力できます。

Enter eth0 IP address:

このマシンのメインイーサネット インターフェイスの IP アドレスを入力します。

Enter network mask [255.255.0.0]:

指定した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

Enter default gateway address:

デフォルトのゲートウェイ アドレスを入力します。これは、メインイーサネット インターフェイスから到達可能でなければなりません。

The second ethernet interface is currently disabled for this machine.
Configure eth1 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

セカンドイーサネット インターフェイスの情報を入力する場合、**Yes** を選択します。*eth1* の設定を選択した場合、WCS プロパティ ファイル

(*/opt/WCS4.0/webnms/classes/com/aes/common/net/LocalHostUtils.properties*) を手動で編集し、コントローラとの通信および Location サーバとの通信に *eth1* または *eth0* のどちらを使用するかを指定する必要があります。ManagementInterface= line を ManagementInterface=*eth0* または ManagementInterface=*eth1* に変更すると、コントローラ インターフェイスが指定されます。

PeerServerInterface= line を PeerServerInterface=*eth0* または PeerServerInterface=*eth1* に変更すると、Location サーバ インターフェイスが指定されます。これは省略でき、次のプロンプト DNS へ進むことができます。

Enter eth1 IP address [none]:

このマシンのセカンドイーサネット インターフェイスの IP アドレスを入力します。

このマシンのセカンド インターフェイスの IP アドレスを入力済みなので、このインターフェイスに対する静的ルーティング エントリを 2 つまで定義できます。各エントリには、ネットワーク アドレス、ネットワーク マスク、およびゲートウェイ アドレスが必要です。

Enter network mask [255.0.0.0]:

指定した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

Enter network [none]:

ネットワーク アドレスを入力します。

Enter network mask [255.0.0.0]:

指定した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

Enter gateway address:

指定したネットワークとネットワーク マスクのゲートウェイ アドレスを入力します。

Domain Name Service (DNS) Setup

DNS is currently enabled.

No DNS servers currently defined

Configure DNS related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

最大 3 つの DNS を入力できますが、無効のままにしておくこともできます。サーバは定義されていません。

Enable DNS (yes/no) [yes]:

DNS を有効化するには、**yes** を選択します。

Enter primary DNS server IP address:

この DNS サーバに IP アドレスを入力します。

Enter backup DNS server IP address (or none) [none]:

バックアップの IP アドレスを入力します。セカンド DNS サーバを入力すると、オプションのサードサーバに関するプロンプトが表示されます。

Configure timezone? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

タイムゾーンを設定するには、**Yes** を選択します。

Please identify a location so that time zone rules can be set correctly.

Please select a continent or ocean.

- 1) Africa
- 2) Americas
- 3) Antarctica
- 4) Arctic Ocean
- 5) Asia
- 6) Atlantic Ocean
- 7) Australia
- 8) Europe
- 9) Indian Ocean
- 10) Pacific Ocean
- 11) UTC - I want to use Coordinated Universal Time.
- 12) Return to previous setup step (^).

タイムゾーン ルールを正確に設定するために、ロケーションを選択する必要があります。適切な大陸または大洋の番号を選択します。

Please select a country.

選択した大陸または大洋に基づいて、国の選択肢が表示されます。適切な番号を選択します。

Please select one of the following time zone regions.

選択した国に基づいて目的のタイムゾーン地域の番号を入力します。

選択したタイムゾーン情報が表示されます。

Is the above information OK?

- 1) Yes
- 2) No

情報が正確であることを確認するには、**Yes** を選択します。No の場合、一連のプロンプトに再び戻ります。

NTP is currently disabled.

Configure NTP related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:

NTP (ネットワーク タイム プロトコル) の有効化を選択した場合、システムは選択した NTP から設定されます。**Skip** を選択した場合、現在のデータおよび時間を入力するプロンプトが表示されます。

Enable NTP (yes/no) [no]:

Yes を選択した場合、NTP サーバ名またはアドレスを入力する必要があります。

```
Enter NTP server name or address:
Enter another NTP server IP address (or none) [none]:
```

すべての選択結果が表示されます。次に、入力したすべてのセットアップ情報を確認するように求められます。設定を進める場合は Yes を、さらに変更を加える場合には No を、前の手順に戻る場合には ^ を入力します。

```
Is the above information correct (yes, no, or ^):
```

yes の場合、設定情報が適用されます。変更内容を確認するプロンプトが表示されたら、システムをリポートすることをお勧めします。リポート後に WCS サーバが自動的に起動します。

次に `root` を使用してログインすると、Linux シェル プロンプトのみが表示され、セットアップ スクリプトは表示されません。随時セットアップ スクリプトに戻り、`root` でログインして `/opt/setup-appliance/setup.sh` を実行することで設定を変更できます。

ライセンス供与

WLSE ネットワーク管理アプライアンスの WCS ユーザ インターフェイス全体にアクセスするには、ライセンスが必要です。標準の WCS ライセンスでは、WLSE の使用が有効になりません。WLSE には、指定されたライセンスが必要です。このライセンスの名称は、次のとおりです。

- **WLSE Upgrade License** : このライセンスにより、WLSE (Wireless LAN Solution Engine) ユーザは WLSE アプライアンスを変換して WCS を稼動できるようになります。



(注)

WLSE Upgrade ライセンスは、WLSE アプライアンスを WCS に変換する際に WLSE アプライアンスにのみ使用できます。

WLSE Upgrade ライセンスは、WLSE から WCS へ変換するネットワーク ステーションのホスト名に特定される必要があります。ライセンスなしでもインストールおよびスタートアップは進行しますが、WCS ユーザ インターフェイスへはライセンスがないとアクセスできません。

ライセンスをインストールするには、付録 A 「WCS およびエンド ユーザ ライセンス」を参照してください。